

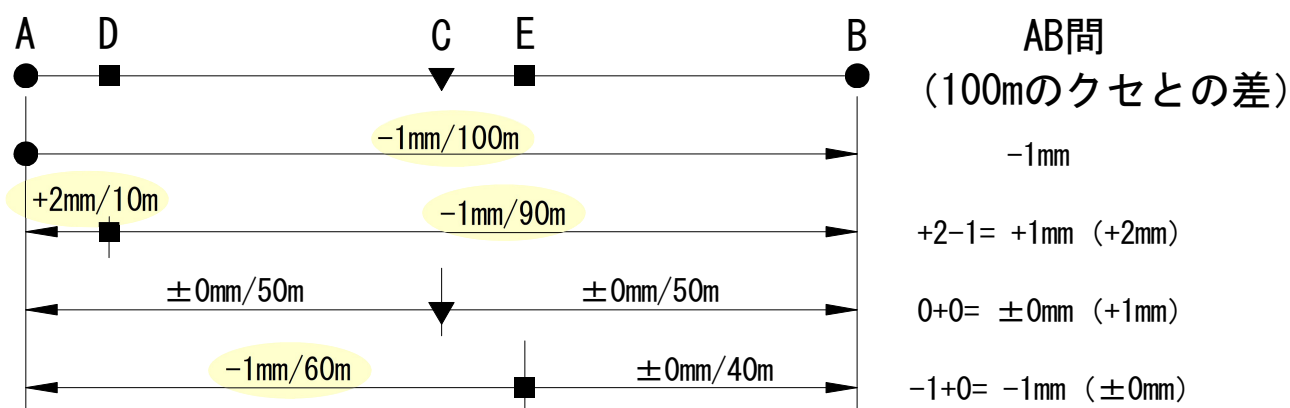
【 TS毎の器差（クセ）の違いとは：図説1 】

※ 器差とは測定表示値から真値を差引いた値（差）

- ① TS-甲と乙をA, D, C, Eの点に設置して下図の区間を測定したとする。
- ② それぞれの区間における器差は下図の通り全て許容値内の結果を得たとする。

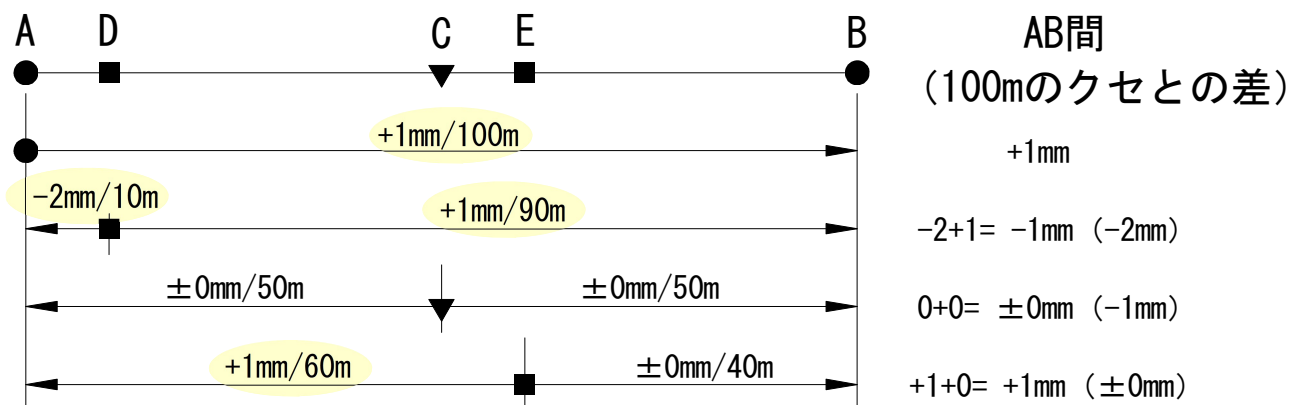
【 TS-甲 の場合】

TS-甲は10m前後で真値+2mm, 60~100m区間で-1mm表示するクセがある。



【 TS-乙 の場合】

TS-乙は10m前後で真値-2mm, 60~100m区間で+1mm表示するクセがある。



★ 点検調整済みTS（許容精度±2mm以内）の甲と乙でも

クセにより調整が異なり、その内訳（距離の組合せ）も異なる！

▼ 現場環境・取扱い方法・気温・湿度等により次第に

クセのバランスが崩れ許容値オーバーとなるため、校正が大切である。

■ このクセにより現場で混乱する例を【図説2】で解説！